

# 令和7年度 日本大学藤沢小学校 自己評価票

## 〔本校の目指す学校像〕

本校の教育活動の中で、豊かな知識（学力）、諦めない心（気力）、頑張れる体力を児童に身につけさせ、何事もくじけることなく、力強く、今後ますます複雑化するグローバルな社会で自分の考えをもって歩み続けることができる、生きる力(自主性と創造性)を持った心豊かな人間を育てることを目指す。

## 〔本校の特徴〕

学習においては、土台となる国語、算数、体育に力を入れ、基礎学力、基礎体力の育成を行う。宿泊行事（防災訓練1泊、林間学校2泊3日、スキー教室2泊3日）の実施や交通安全教室・防犯教室・情報モラル教室等の講演会により、生活習慣の確立と物事に対するやり抜く気力、児童相互の協力や思いやりの気持ち、自らを守ることへの意識を育てていく。

充実した環境を生かした教育（大学教員による特別授業、農場実習、中高との連携教育）を通し、日常で学んだことをより発展的な学びにつなげ、児童自身が将来に向けて考え、目標に向かって取り組む姿勢を身につけていく。今後の課題は、児童の「学力と体力の向上」、「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」を踏まえた6年間の安定した教育内容を作り上げること、また安定した児童の募集・確保を行うことである。

## 〔令和7年度の重点目標〕

- 1 基礎学力の育成
- 2 課外活動の充実
- 3 中高・大学との連携
- 4 クラス運営力の向上
- 5 学校評価の向上
- 6 児童確保に向けた募集活動

## 〔令和7年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
教育活動	基礎学力の育成	令和6年度から継続の取組 ①朝学習（毎朝15分間）、日々の宿題を通し、学習習慣を身につけた。 ②外部実力テスト（年2回）や検定（算数・漢字・英語）を実施した。 ③遊学タイムで日本大学生物資源科学部の大学生による学習サポートを行った。 ④6年生の特別補習を実施した（全6	A	朝学習を継続する。 外部テストの結果を踏まえ、児童の学力の定着・向上につながるよう、各教科で検討を行う。 遊学タイムでの学習サポートを継続する（大学生ボランティアも含む）。 各種検定受験を継続する。 「授業アンケート」において、学習に苦慮している児童を早期発見し、早期対応を図る。 学習が遅れ気味の児童に対するサポートを継続する。 6年生への特別補習を実施する。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
		回)。 学習が遅れ気味の児童に対し、担任からの声掛けはもちろん、学年主任、進路指導主任と保護者との面談を段階的に実施し、学習への取組について情報共有を行った。		保護者会や面談を通じて家庭での学習習慣の確立をお願いし、また保護者との情報共有を心掛ける。
	気力・体力の育成	行事を通しての取組を実施した（行事内容は令和6年度からの継続）。 行事後、振り返りシートを必ず作成し、令和8年度につなげられるように取り組んだ。 諸活動を円滑に計画・実施できるよう、令和6年度の反省を踏まえ、児童会をはじめ、関連部署と連携を図った。 体力づくりだけではなく、思いやりや協調性も育成できる目標を学年ごとに決め、取り組んだ。	A	例年実施している行事を通し、体力づくりだけではなく、思いやりや協調性も育成できるよう、学年ごと目標を決めて取り組む。 持久力を図る行事（林間学校での登山・運動会・持久走記録会）を通し、何事にも諦めず、粘り強く取り組む姿勢を育成する。
	授業改善に向けた取組	令和6年度からの継続した取組 ①教員同士の授業についての情報交換を実施した。 ②管理職も授業を適宜観察してその都度気になったことを伝えた。 ③定期試験ごとに教科で打合せを行い、シラバスどおりに進めているかを確認した。 ④中学入試に対応できるように、進度や内容を含めて検討をした。 ノートPC (Google Chromebook) やグラフィックデザインツール (CANVA) の活用を推進するための研修会を実施した。 授業参観を年3回実施した。 授業改善のための「児童による授業アンケート実施」に向けての検討を行い、段階的に実施した。	A	「授業アンケート」の個別結果を活用して各自授業改善・授業力向上に努める。また、「授業アンケート」の教科別結果を教科部会で共有し、研究授業を実施するとともに、日常の授業も教員同士で適宜見合えるようにし、よりよい授業に向けて各教科で検討をする。 各教科で、授業進度や取組内容についての打合せを学期ごとに行う。 特に試験範囲と試験内容の打合せはしっかり行う。 中学入試に対応できるように個々の教員が授業のスキルアップを目指す。 ICTを活用した授業を推進していく。 授業参観を実施（6月・11月・2月）する。
	学習サポートの継続	令和6年度から継続した取組 ①教科担当と担任が常に情報共有を行い、児童の状況を把握し、遊学タイムへの参加や昼休み・放課後の個別対応を実施した。 ②遊学タイムで学習サポートを行った。 担任と保護者との情報共有の機会を増や	A	令和7年度同様の取組を実施する。 保護者とも情報を共有し、学校と家庭の両方でサポートできる体制を作っていく（遊学タイムへの参加、宿題の確認など）。 低学年においてはチーム・ティーチングにおけるT2による学習支援を推奨していく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
		し、保護者を通じて遊学タイムへの参加を促すことにより、遊学タイムで個別の課題を出す等の対応を行った。		
学校生活への配慮	防災安全に関する取組	<p>令和6年度から継続した取組</p> <p>①避難訓練を実施した(4月と1月は地震, 9月は火災による訓練)。</p> <p>②防災宿泊訓練を実施(3年生)した。3年生において, 起震車体験や防災に関する調べ学習, 防災用品の制作活動を行った。</p> <p>③交通安全教室を実施した(6月)。</p> <p>不審者侵入時における対応についての講演を行った(警察より教職員と児童を対象にそれぞれ実施)。</p>	A	<p>避難訓練の実施を継続する(令和8年度は, 隔年で実施している消火体験・煙体験も実施する)。</p> <p>防災宿泊訓練の実施(6月)を継続する。</p> <p>交通安全教室を実施する。</p>
	良い人間関係の確立	<p>令和6年度からの継続した取組</p> <p>①「ふわふわ言葉・ちくちく言葉」について考える取組を行った。</p> <p>②各学期の終業式において, 児童それぞれが活躍した取組を紹介・表彰し, お互いを尊重する態度を育んだ。</p> <p>③5月・11月に「子どもの社会的スキル横浜プログラム」及び本校で作成している「友達との関わりについてのアンケート」を実施した。適宜声掛けや指導を行い, 一人一人の児童が安心して学校生活を送ることができるよう配慮した。</p> <p>④児童間のトラブルの際, お互いがその後良い関係で過ごしていくことができるよう, 教員が話を聞く際には, 決めつけることなく児童の話を丁寧に聞いて対応した。</p> <p>⑤6月の保護者会において外部講師を招き, 「子どもと寄り添う」をテーマに講演を実施した。12月には, 4年生以上の児童を対象として, 外部講師による情報モラル教室を実施し, 友達とSNSやインターネット上で関わる際の留意点などについても学ぶ機会を設けた。</p>	A	<p>「ふわちく週間」(相手の気持ちを考えた言動をそれぞれが考える週間)を継続し, 引き続き言葉(ふわふわ言葉・ちくちく言葉)について考える取組を行う。</p> <p>様々な行事で発表や表彰をするなど, 個々の児童が活躍できる場面を作る。特に低学年においては, 「友達の良いところ探し」をするなど日常的な活動においてよい人間関係が確立できるよう, 指導していく。</p> <p>例年実施している「子どもの社会的スキル横浜プログラム」及び本校で作成している「友達との関わりについてのアンケート」を継続する。</p> <p>児童のトラブル対応について, 引き続き教員が児童の話を丁寧に聞く対応をしていく。</p> <p>6月の保護者会において, 保護者対象に「子どもと寄り添う」をテーマに講演を実施する。</p> <p>12月に実施している「情報モラル教室」を継続して実施するが, 実施時期を1学期に変更する。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	清潔な環境の整備	令和6年度からの継続した取組 ①昼食後の清掃時間を設けた。 ※令和7年度は5年生も2年生の掃除指導を行った。 ②児童と教職員の清掃に加え、清掃業者が入っているため、トイレや洗面台も常に清潔で衛生的に保たれている。 ③2・3年生が大学生と一緒に中庭と昇降口前の花壇の整備を行った。	A	校舎内外の清掃活動を児童・教職員が共に行うことで、みんなが過ごしやすい環境づくりを行う。 児童の机やロッカー、下駄箱等、適宜確認をし、整理整頓の指導を行う。 トイレや洗面台の使用について、児童が日頃からきれいに使うよう、委員会活動等を通し、意識を高めていく。 大学の協力もいただき、校内花壇の整備を継続して実施する。
	保護者対応	令和6年度からの継続した取組 ①児童・保護者について旧担任から新担任への引き継ぎを行った。 ②担任だけでの対応にならないよう、学年主任、生活指導主任及び管理職で対応した。 令和6年度は、管理職・カウンセラーも含めた情報共有を徹底し、丁寧な対応を行った。	A	年度始めに担任・学年で丁寧な引継ぎを継続して行う。 教員間で行う情報共有を継続する。 年1回以上の教員対象研修会を実施する。
	いじめ防止のための取組	令和6年度からの継続した取組 ①日常的に友達の良いところ探しをすることで、お互いを尊重する姿勢を身につけられるよう取り組んだ。 ②早期発見のための「友達との関わりについてのアンケート」及び「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を実施し、気になる回答があった児童については速やかに面談を行い、状況の把握と情報の共有を行った。 ③教科担当教員にも児童の様子をよく見てもらい、担任と情報共有を行い、児童の変化については早い段階で把握できるようにした。	A	日常的に「友達の良いところ探し」を継続して行う。 いじめの早期発見のため、カウンセラーも含め教員間でこまめに情報共有を継続して行う。 児童間の人間関係を把握するための「友達との関わりについてのアンケート」及び「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を継続して実施する。 委員会活動を通して、児童が安全・安心して過ごせる取組を継続する（ふわちく週間やポスター掲示による啓発活動）。
課外活動	異学年との交流	令和6年度からの継続した取組 ①各行事を実施した。 ②縦割り班（1年生から6年生までの班）でのランチ会・レクリエーションを実施した。 ③清掃活動を実施した。 ④遊学タイムの活動を実施した。 授業内での交流	A	各行事を通しての異学年交流の機会を増やす。 委員会活動を通して、よりよい学校を目指して自発的姿勢で取り組む。またその内容を、上級生が下級生に伝え、その姿を継承していく。 クラブ活動においても共通の興味をもつ異学年の児童で集まり、交流を図れるようにする。 授業（生活や総合学習）の中で、異学年が交流できる機会を継続して行う。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	<p><b>主体性・責任感の育成</b></p>	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①各行事において、高学年は各行事の運営に関わり、与えられた役割に責任をもって取り組むことの大切さを学んだ。</p> <p>②教員は、クラス・学年・異学年間で団結する姿勢や諦めないで取り組む姿勢を身につけられるように、様々な立場から声掛けを行った。</p> <p>③月に一度開催される委員会活動の時間には、各委員会が行う常時活動(体育委員による器具庫の清掃, 図書委員による図書の貸出しなど)に取り組んだ。</p> <p>それぞれの委員会で全校児童が安全で快適な学校生活を送ることができるように考え、児童発案の様々な取組(環境委員による階段や廊下の掲示, 運営委員による学校生活のルールやマナーに関する啓発活動など)を行った。</p>	A	<p>各行事を通しての異学年交流の機会を増やす。林間学校は行先が変わるため、綿密な計画と下調べを行い、きちんとした実施要項を作成できるよう取り組む。</p> <p>委員会活動を通して、よりよい学校を目指して自発的姿勢で取り組む。またその内容を、上級生が下級生に伝え、その姿を継承していく。</p> <p>クラブ活動においても共通の興味をもつ異学年の児童で集まり、交流を図れるようにする。</p>
	<p><b>向上心・協調性の育成</b></p>	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①各行事において、一人一人が目標をもって取り組み、協調性・諦めずやりぬく力を身につけた。</p> <p>②5年生対象に「命の大切さの教室」を実施した。</p> <p>児童会が企画している遊学タイムでは、「学習サポート」のブースを設置し、授業で理解することができなかつた問題を持参して取り組むなど、各自が目標をもって学習に取り組む姿勢をサポートした。</p>	A	<p>各行事において、それぞれが目標を立てて取り組み、振り返りを行うことで向上心を育成する(キャリア・パスポートの作成の継続)。</p> <p>運動会や文化祭, 宿泊行事を通し、クラス・学年で団結して取り組む姿勢(協調性)を育成する。</p> <p>遊学タイムにおける「学習サポート」を継続する。</p>
<p><b>進路指導</b></p>	<p><b>将来の夢の形成支援</b></p>	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①進路希望調査を実施した(4~6年生)。</p> <p>②保護者を対象に日本大学藤沢中学校の進学説明会を実施した。</p>	A	<p>児童の希望する進路を叶えられることが何よりも望ましいことは言うまでもないが、児童の実態によっては、他中学への進学が子どもの将来のためになることもある。それが私立なのか公立なのかなども含めて、家庭と学校で協力して進路を探っていくことが必要だと考え、その児童に本当に合った進路を早期から検討していく。また、全教員がその大切さを理解した上で、進路指導を</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
		<p>③生物資源科学部の教員をはじめとする外部講師による特別授業を実施した(各学年年2回)。</p> <p>④4,5年生を対象に中学校1年生の卒業生を招き講演(3月)を行った。</p> <p>⑤キャリア・パスポートを作成した。</p> <p>日本大学の魅力を伝え、帰属意識も高めるために、始業式などに日本大学の目的及び使命に触れて話をした。</p> <p>中学校・高等学校と合同で、日本大学医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科の説明会を実施した(9月)。希望する進学先について、またそこに至るために必要な力などを具体的に知るよいきっかけとなった。</p>		<p>行う。</p> <p>4,5年生を対象にした、卒業生による講演を継続して行う。他の中学に進学した児童と日本大学藤沢中学校に進学した児童より話をしてもらい、一人一人の進学、中学入試に向けての意識を高めていく。</p> <p>生物資源科学部の教員による特別授業については、児童の興味関心を高めているため、今後も継続していく。</p>
	<p>中学入試に向けた取組</p>	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①3年生以上で定期試験を実施した。</p> <p>②年2回(9月・2月)外部模試を実施した。</p> <p>③6年生は、四谷大塚模試を実施した。</p> <p>④保護者対象に四谷大塚の講師を招いて中学入試についての講演会を実施し、家庭での外部進学への意識を高めた。</p> <p>⑤6年生の児童を対象に、特別補習を行った(夏と冬に計15時間ずつ実施)。</p> <p>⑥学年主任や進路指導部主任などと面談の場を設け、学習面の課題解決を目指した話合いを行った(4・5年次は2学期末と学年末、6年次は夏の面談時)。</p> <p>⑦各教科において入試に対応した問題集を使用し、中学入試に対応できる進度で授業を進めた。</p> <p>日本大学藤沢中学校への併願推薦が可能となり、安心して外部受験ができるようになったため、児童の第一希望へのチャレンジを応援する仕組みが整い、外部受験希望者のほとんどが日本大学藤沢中学校への併願受験をした。</p>	<p>A</p>	<p>令和7年度取組を継続して行う。</p> <p>外部模試(育伸社・四谷大塚)の実施を通し、中学入試に対応できる力をつけるため、各教科で結果を検証し、対策を考え、次につなげていく。</p> <p>日本大学藤沢中学校への併願制度が整ったことで、安心して外部への受験がチャレンジできるようになったことから、児童の進路選択の幅が広がるよう、担任・教科担当から児童・保護者に話をしていく。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	日本大学藤沢中学校への進学を希望する児童に向けた取組	令和6年度からの取組 ①中学校の行事に参加した。 4年生(体育祭)・5年生(体験授業・合唱コンクール) ②日藤祭(文化祭)の案内通知を配布した。	A	令和7年度の取組を継続して行う。 授業体験については、児童の進路選択の時期を考え、11月から9月実施にできるかを検討していく。 高学年において、日本大学藤沢中学校の部活動体験ができるように検討を進めていく。
	健康な生活に向けた取組	令和6年度からの取組 ①『ほげんだより』の配布、保健室前のポスターの掲示を通し、適宜必要な情報提供や注意喚起を行った。 ②健康診断、身体測定及び色覚検査(1年生希望者)を実施した。 6月に保護者を対象とした講演会「うちでできる性教育」を実施した。	A	令和7年度の取組を継続して行う。 委員会活動(保健委員会)を通じ、学校における健康課題について調べ学習を行う。 健康診断(4月)、身体測定(9月・2月)、色覚検査は継続して実施する。
保健衛生	安全確保に向けた取組	令和6年度からの取組 ①専任教職員を対象にBLS(一次救命処置)・エピペン(アナフィラキシー補助治療剤)講習を行った。 ②安全に生活ができるよう、環境委員会がポスターを作成・掲示した。 ③休み時間(中休み・昼休み)中の教員による見守りを実施した。 ④学期始めに登下校中の見守りをした。 ⑤避難訓練を企画・実施した(年3回)。 ⑥3年次において、非常時に備え防災宿泊訓練を実施した。 ⑦入学後の1か月は、安全な登校をするための指導として下校時に学校から駅までの付き添いを行った。 不審者侵入対策として、中高と合同で警察署員による講演会を実施した(12月)。 説明会やオープンスクール時に、事前申込みをした受験生の保護者を守衛所にて確認できるようにした。 学期始めと学期末に、生活指導部主任から登下校中や長期休業中の安全な過ごし方について全児童に注意喚起を行った。	A	令和7年度の取組を継続して行う。 登下校におけるマナー向上のため、教員の見守りは学期初めだけではなく、児童の様子を見ながら適宜行う。 公共交通機関での態度やマナーについて、児童一人一人が自覚をもって行うことができるよう、指導を徹底する(日常の見守り、全体会での講話など)。
図書	読書習慣の育成	令和6年度からの取組 ①1,2年生の国語の授業を週1時間、図書室で読書の時間として実施し	A	令和7年度の取組を継続して行う。 図書委員会を中心に、児童の読書量が増える企画を今後も計画していく(令和8年5月末から7月までの長期貸出し前まで、ポイントカード形式のイベント

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
		<p>た。3年生は週1時間、図書室を優先的に使用できる時間を設けた。</p> <p>②充実した調べ学習が行えるように、中高や市の図書館からも図書を借りられるように整えた。</p> <p>③学期ごとに「図書室だより」を配布し、読書に対する意識付けを行った。</p> <p>④自身の成長を感じられるように読書記録をつけた。</p> <p>図書委員会の取組として、読書推進イベントを実施した。</p>		<p>開催を計画準備中)。</p> <p>ラウンジに展示している本のラインナップを、学校行事や学年での取組、季節の行事などに合わせて用意し、子どもたちの読書に対する意識を高めていく。</p> <p>子どもたち主導で学校全体の読書推進のためにできることを図書室から発信していく。</p> <p>低学年を中心に、楽しんで読書量が増えるような企画を図書委員会が考え、実施する(現在、新学期に1年生が図書室利用に慣れることができる企画を考えている)。</p>
広報	志願者数増加に向けた募集活動	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①学校説明会・個別相談会(年4回)、授業公開(年3回)、保護者講演会(年2回)、保護者懇談会、入試報告・施設見学会及びオープンスクール(3回)を実施した。</p> <p>②小学校連合・幼児塾主催の説明会に参加した(年11回)。</p> <p>幼児が本校に来校する機会として、行事参加イベント(運動会、文化祭)、体験型イベント(じゃがいも掘り、お花を植えよう)を実施した。</p>	B	<p>令和7年度の取組を継続する。</p> <p>幼児教室主催の説明会への積極的な参加、Instagramなどの広報媒体の計画的な利用を通じて、学校説明会などの校内で実施される企画について、多くの受験生に広め、学校に足を運んでもらえる機会を増やしていく。</p> <p>ホームページの情報(お知らせ)も本校の理解を深めてもらえるように引き続き計画的に更新する。</p> <p>説明会において、子どもたちの教育活動が伝わるような作品の展示や動画を使用した学校紹介など、学校の良さを分かりやすく伝えるように取り組む。心に残るお土産やスタンプラリーなどを実施する。</p> <p>幼児が本校の児童と関わる機会として、「じゃがいも掘り」・「お花を植えよう」、「運動会」の企画に加え、6月に年少年中児対象の「夏祭り」を開催する。</p>
	本校の取組を多くの保護者・受験生に知ってもらうための広報活動	<p>令和6年度からの取組</p> <p>①ホームページの情報(お知らせ)を計画的に更新した。また、定期的にSNS(Instagram, Facebook等)を活用し、児童募集につながるよう、イベントや教育活動についても知らせた。</p> <p>幼児教室の訪問をはじめ、幼児教室担当者対象説明会を開催した。近隣幼稚園・保育園に学校案内・チラシを配布した。</p> <p>コンサルティング業者に協力をいただき、本校の魅力をより分かりやすくするための手立てとして、キャッチフレーズを決めた(種からはじまる日藤っ子の学び)。</p>	A	<p>令和7年度の取組を継続する。</p> <p>共働き家庭を含め多くの家庭に選ばれる学校であるために、アフタースクールの活動案内を継続して行う。</p> <p>生物資源科学部の協力を得て、体験型イベント(農場実習など)を引き続き実施する。</p> <p>令和7年度に決めたキャッチフレーズを広め、多くの受験生に本校の魅力を知ってもらう。</p> <p>近隣幼稚園や子ども・お年寄りが集まる施設などにチラシを置いてもらうよう働き掛ける。</p> <p>新年度前から近隣の幼児教室に訪問し、本校の活動の様子を早い時期に伝え受験生の確保に努める。</p>
管理運営	定期的な会議・委員会の実施	<p>職員会議を月2回、各分掌会議、各委員会を定期的実施した。</p> <p>修学旅行等検討委員会を開き、令和8年度からの林間学校について検討を行った。</p>	A	<p>令和7年度の取組を継続する。</p> <p>スキー教室(3年間実施)について、反省・内容を踏まえて今後の取組について検討をしていく。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
	教育環境設備の整備	<p>児童が使用するノートP C (Google Chromebook) の導入に伴い、教員対象の研修会を開き、学習面だけでなく、広報活動においても、より効果的な使用方法について学んだ。</p> <p>児童にシリアルナンバーを配布し、各学年で学習活動に活用した。</p> <p>体育館に空調設備を導入した。</p> <p>開校以来使用しているサーバーが使えなくなる事態があった。ネットワークにつながらないなどの不具合も発生した。</p>	B	<p>各学年、教科において、積極的にノートP C (Google Chromebook) を活用していく。</p> <p>令和7年度サーバーやネットワークにつながらない事態があった。原因としては、経過年数によるものと考えられるため、令和8年度は校内のネットワーク環境を整えていく。</p> <p>これまで使用していた校務システムの保守期間が過ぎたため、新たな校務システムを導入し、より快適な教育環境を構築していく。</p>
	財政面での取組	<p>生物資源科学部の経理長による本校の財務状況についての説明会を実施した。</p> <p>幼児の募集活動を広報部中心に全教職員で取り組んだ。</p> <p>宿泊行事の引率教員の調整、外部の広報活動への出張教員数の調整を行った。</p>	A	<p>子どもたちの活躍している様子やイキイキ活動している様子を伝える。また、上級生が下級生の面倒を上手に見て、関わりを持つことができる様子などを伝えて、本校の魅力を理解してもらえるように広報活動を行い、安定した学校運営が行えるようにする。</p>

#### 〔令和7年度の自己点検・評価結果概要〕

令和7年度の重点目標として掲げていた項目のうち、「基礎学力の向上」については、担任だけではなく教科担当者からの声掛けや遊学タイム（放課後の学習サポート）の活用を通し、児童一人一人が目標に向かって取り組むことができた。「課外活動の充実」についても、令和6年度からの継続した取組により、異学年の交流が休み時間などにも広がっている。各行事で個人だけではなく学年・クラスで目標を掲げ行事に取り組むことができ、達成感を得られるだけではなく、児童にとっては次年度に向けての意識付けにつながっている。これらについては、令和8年度も継続した取組を続けていく。

「安全の確保」については、不審者侵入防止の講演を通し、教員も児童の安全確保のための動き方を改めて確認をすることができた。公共交通機関での態度やマナーについては、前年度と比べると一般の方からの指摘は減っており、今後も児童一人一人が自覚を持って適切な行動をすることができるよう、徹底した指導を継続していく。

「児童確保についての広報活動」については、外部のコンサルティング業者にアドバイスをいただき、全教員で本校のキャッチフレーズを考え、学校の良さを多くの人に知ってもらうように校内外の説明会だけではなく、幼児教室や近隣の幼稚園の訪問などにも足を運んだ。また、日本大学生物資源科学部の協力もいただき、幼児の体験型イベントの実施や本校児童との交流の場を増やす取組を実施したことにより、受験者数の増加につながり、入学者数は最近5年間の中では一番多い人数となった。しかしながら、まだ定員には満たない状況であり、今後も重点的に取り組んでいく必要がある。

「学校評価の向上に向けた取組」として、教務部を中心に児童アンケートを作成し、まずは試験的に2・3・5・6年生で実施をした。令和8年度は、よりブラッシュアップしたアンケートにし、児童や保護者にとって満足度の高い教育活動の実現に向け取り組んでいく。

〔令和8年度の重点目標〕

- 1 基礎学力の育成
- 2 中高・大学との連携
- 3 クラス運営力の向上
- 4 学校評価の向上
- 5 児童確保に向けた募集活動
- 6 校内の教育環境（ネットワーク）設備の構築

以 上